

# 2016年 七ヶ浜音楽アウトリーチ 報告書

報告書：ジャパン・アーツ

## 《本事業のねらい》

- ・音楽を「聴く」ことに集中した体験を通じて、自分の中の感じ方に気づき、他者の感じ方にも関心を寄せ、多様な感性があることを知る。さらに感じたことや想像したことを言語化する活動を通して思考力、表現力、コミュニケーション能力を育む。

## 《実施概要》

参加者：仲道郁代 ファシリテーター2名 観察者1名

11月28日（月） 多賀城市立多賀城小学校

2時限目（9:35～10:20）6年1組38名

3時限目（10:40～11:25）6年2組38名

4時限目（11:35～12:20）6年3組37名

5時限目（13:40～14:25）6年生全員

11月29日（火） 七ヶ浜町立松ヶ浜小学校

1時限目（8:35～9:20）～2時限目（9:30～10:15）6年1組30名

3時限目（10:40～11:25）～4時限目（11:35～12:20）6年2組30名

11月30日（水） 七ヶ浜町立汐見小学校

1時限目（8:45～9:30）～2時限目（9:35～10:20）6年1組32名

3時限目（10:40～11:25）～4時限目（11:30～12:15）6年2組32名

11月31日（木） 七ヶ浜町立亦楽小学校

1時限目（8:40～9:25）～2時限目（9:30～10:15）6年1組25名

3時限目（10:35～11:20）～4時限目（11:25～12:10）6年2組26名

\*活動終了後に児童と教師に対してアンケートを実施。

## 《内容》

### ワークショップ

#### 1. エアピアノで想像して「聴く」～そして実際の演奏を「聴く」

「革命」（ショパン）「トロイメライ」（シューマン）

演奏家が曲を演奏する時、そこには何か伝えたい思いや表現したいものがある。音が無くても身体の動きや仕草だけで想像できることもある。その後実際の演奏を聴くことで、演奏家が伝えたかった思いを感じ取り、想像したりする。

（活動の様子）

仲道氏が曲を弾く仕草をする（エアピアノ・実際に音は出さない）。児童はそれを見て、仲道氏がどのような曲を弾いているのかを想像し、どのように思ったか意見を言う。その後仲道氏は実際に演奏し、「みんなの気持ちの中に湧き上がるものが大切。想像して、感じるものが大切、どれもが正解。」と話す。



エアピアノを「聴く」

(アンケートより)

- ・1曲目と2曲目の、どんな曲かを想像するのは、身体の動きなどで分かったけれど、具体的に何の音かまでは分かりませんでした。でも本当にひいているような力はあってすごいと思いました。
- ・エアピアノを見て、こんな感じかなと思ったら本当にそのとおりになったのでびっくりしました。

## 2. 1つの曲を様々な角度から想像してみる。

「光のこどもたち」より「青い惑星」(田中カレン)

- ① 一人の子どもがある曲を聴いているという場面を想像し、その子はどんな気持ちでどんなことを思っているのか、児童たちは目を閉じて仲道氏の演奏を聴きながら、その子どもの気持ちについて考える。紙とペンが配られ、バラバラになって想像したことを紙に書く。何度か演奏は繰り返される。
- ② 想像したことを共有しあう。



バラバラになって書く

仲道氏が演奏する曲を聴きながら、他者の立場に立って、その心理を推察する活動である。仲道氏やファシリテーターが児童一人一人の所を回って「その子の気持ちを考えてみて」などと声をかけたり、演奏を繰り返したりして想像することを促した。その後、近くの児童とお互いに書いたことを見せ合ったり、仲道氏が意見を紹介したりして、全員で共有しあった。この時得られた児童の記述は、他者心理を客観的に推察しているものもあれば、自己の内面を表しているようなものもいくつか見られた。

【児童の記述より】(文は本人の記述そのまま)

- ・その子どもはずっと笑っていた。優しい子→気持ちが落ち着いている。まわりにいる人たちを笑顔にできる。幸せな気持ちにさせる。雲の上にいる。
- ・その子は、今悲しい気持ちで、その事を誰にも話せずにいた。でもそのピアノの音を聞いて、誰かに話そうと決めた。ピアノの音を聞きながら泣いていたと思う。
- ・優しく悲しいような曲。昔の思い出がよみがえってきて、その場で泣きたくなる。大好きだったおばあちゃん、おじいちゃんと別れた時のような気持ちになる曲。悲しい、さみしい。夜にやねで星を見ている。おだやかな気持ちになれる。聞いていて安心する。だれかがいなくなったかのような。
- ・宇宙で一人の星が仲間をさがすけど、自分以外、だれもいなくてさびしく一人にいる。暗い気持ちになる。
- ・暗い気持ちで聞いている。友達がいなくなり、1人ぼっちで歩いている。
- ・とてもかなしくなった。しずかでゆっくりな曲。しずかなかなしさ。最後の音がすうーとやさしいかんじで止まる。

(アンケートより)

- ・絵の人がこの曲をどう思っているのかともやって、想像はこんなに広がるものなんだと改めて思わせてくれました。
- ・「絵を見て思ったことを書いてください。」のやつで、すごく悲しい感じになりました。みんなのもみてみたら、思いつかなかったものが分かりました。
- ・絵に書いてある子の心情を考えるのは難しかったけど、みんなで紙に書いてみると一人一人ちがった答えだったので、びっくりしました。もっとこういう授業をやってみたいです。

③ さらに同じ曲を題材として、次の活動へと進む。

今度は曲を聴きながら、「数字／1・2・3・4・5」の中から「自分の気持ちにぴったりにくる数字」を選び、配られた小さな紙に記入する。同じ数字を選んだ児童たちがグループになって、なぜそう感じたのか、お互いに理由を言い合う。続いてグループごとに意見を発表し合う。

次に「味覚／甘い・苦い・しょっぱい・からい・にがい」「風景／海・空・草原・宇宙・森」「色／白・黄・緑・赤・青」についても同じことを行う。



児童の意見を引き出す。

休み時間終了後、次は「多角的な観点から作品を聴く」という活動を行った。児童たちはゲームのように楽しんで取り組んでいる様子で、自分がなぜそれを選んだのかという点についても、様々な意見が出た。仲道氏は児童の意見を聞いた上で、曲の冒頭を少し演奏し、「わかる、そんな感じに聴こえるね。」と言ったり、「自分が選んだものを考えながら、もう一度聴いてみよう」と言って演奏を繰り返したりした。風景で「空」を選んだ児童が「草原はいろんな音がするけれど、空は音がしないから。」と言ったことに対して、「彼はピアノの音を聴いているのに、音の無い静かな世界を想像しているみたい。不思議ね。」と言い、児童の関心を誘った。このようなやりとりをすることによって、他者の感じ方に触発された児童は、自分の感じ方にもヒントを得て、必然的に曲を集中して聴くようになった。

【児童の意見】

(選んだ項目) (理由)

- 「1」
- ・ 悲しい、一人ぼっちだから。
  - ・ 1人で寂しそうだから。
  - ・ 希望って言うスタートダッシュの感じ。
- 「2」
- ・ 頭の中で2が出てきたから。
  - ・ 上を目指す希望みたいな感じ。
  - ・ 1じゃないから。
  - ・ 穏やかな気持ちと寂しい気持ちの2つが合わさっているから。
- 「3」
- ・ 3はふわふわしているから。
  - ・ 1～5の間をとって3。
- 「4」
- ・ 4が一番静か、優しい。
  - ・ 4という数字が泣いている感じだから。
  - ・ 4月に聴いていそう。
- 「5」
- ・ レベルで言うと5って言う感じ。
  - ・ 3とか4は優しい感じだから5。
- 「甘い」
- ・ 曲の音程の感じが生クリームの感じ。
  - ・ ババロアとか。この曲自体が甘ったるい感じがするから。
- 「苦い」
- ・ 失恋したイメージ。
  - ・ 暗い。悲しい感じ。
  - ・ 辛くて苦い思い出を思い出している感じ。
- 「しょっぱい」
- ・ 泣いている涙の感じ。
  - ・ 涙はしょっぱいから。

・聴いていたらしょっぱいものを食べたくなった。

「からい」 ・高い音とか並んでいるとからいイメージ。

・わさびとか。

・怒っている感じ。

・生きることがつらい。

「すっぱい」 ・高い音がキーン。

・唐揚げにレモンをかけて食べたいと思った。

・何かすっぱいような気がした。

「海」 ・静かな砂浜に波が来てサーッと。

・水平線。

・冬の海を想像。

・冷たくて悲しい。

・海は広くて果てしないから。

「空」 ・広くて何もない空。

・草原は色々な音がするけど、空は音がしないから。音の無い世界を聴いているみたい。

・空を見た時、雲が魂のように見えた。

「草原」 ・広い草原で風が吹いていて、一人で誰かを探している。

・ゆったりしたテンポが大地の感じ。

「宇宙」 ・空よりももっと広い。

・終わりが見えなくて一人ぼっち。

・空気が無くて苦しい。

「森」 ・静かで神秘的な感じがした。

・誰もいなくて、自然の音がする森に1人でのいる感じ。

(アンケートより)

- ・どんなことを想像したか、感じたかを発表するときいたときは、最初不安でした。でもゲームで「1～5でこの曲に合うのは?」「色は?」「味は?」「宇宙、草原、海、空のどれ?」とやっていくうちに、楽しく想像することができました。私が友達の発表、感じたことでいいなと思ったのは、「空」を選んだときに、「音がないような静かな空」といっていたことです。音をきいて、想像したのに、音がないと表現するのはすごいなと思いました。わたしはゲームをしてみて、同じものをえらんでも感じるものや想像したものがちがうことがあっておどろきました。このアウトリーチを受けてみて、これからは演奏するとき、曲を聞くときに想像をふくらませようと思います。改めて音楽の楽しさを感じることができてよかったです。
- ・人によって曲の感じ取り方がちがうという事が分かりました。感じ取る時、正解などはないという事も分かりました。みんな自分の主張を言う時、また別の考えでも納得できたのがすごいと思いました。
- ・ゲームで色、数字、味、自然で音楽を表現しました。みんな1人1人がちがう考えをもっているということが分かりました。1つの音楽でも人によってとらえ方がちがっておもしろかったです。例えば私は悲しいやさみしいと感じたけど、他にもおだやかやさしいと感じている人もいて、そういう考え方もあるなと共感しました。ゲームでの色や数字などで表現するときは同じ答えでも考え方がちがっておもしろかったです。あらためて音楽はすばらしいなと思いました。
- ・曲を数字や色や味や自然で表現するというのは考えたこともありませんでした。でもいざやってみると自分の中でフィットするものが必ずありました。私が思ったものちがうものを選んでいたらなんでそう思うんだろうと不

思議に思うときもあったけど、理由を聞くとすべて音楽にあう気がしました。考えたことは人それぞれちがったので、1人1人の良さをみんな持っているということに気がきました。ふだんは、なにげなく聞いていた音楽だけど、深く考えてみると音楽は楽しいものだなと思いました。

- ・ゲームでは数字・色・味などで歌を表現しました。そしてみんなと意見を言い合いました。意見を言い合った時、同じ数字・色・味だけど、理由はちがうということが分かりました。これからは音楽を聞く時は、どういう様子・感じかたかを考えて聞きたいと思いました。

## 鑑賞活動

作品の背景を知り、演奏を聴く。 「英雄ポロネーズ」(ショパン)

最後に仲道氏は、ショパンが作品を作曲した当時の時代背景やその心情、ポーランドの人々の思いについての話をしてから、演奏を始めた。児童たちは目の前のダイナミックな演奏に心を奪われたように集中して聴いている。



ダイナミックな演奏に集中する児童。

ここまでの活動から、児童たちの音楽を聴くことが意識化されてきているため、最後の演奏ではそれまでの受動的な態度ではなく、聴いて何かを感じようとする能動的な態度が感じられた。仲道氏による曲の解説も、曲を理解するためのヒントとなった。

(アンケートより)

- ・いろんな曲のきき方がわかって音楽がもっと楽しめるようになったし、その曲を作った人やひいている人の気持ちがよく伝わってくるようになりました。こうやって曲をゆっくり聞くのがあまりなかったので、あらためて曲の美しさや楽しさがわかりました。英雄ポロネーズではショパンのしょうかいもあって、どんな思いをもって曲を作ったのかがよくわかりました。だれかのために作った曲はとても美しくポーランドの人々も感動させるほどのものになったと思いました。
- ・初めて聞いた曲でも、ひく人の気持ちや感情を知ること、興味を持つことができるんだなと思いました。
- ・今回、音楽を通してたくさんの想像ができました。英雄ポロネーズでは、戦争の時に聞かれ、勇気と元気をもたらした曲だと知り、とてもおどろきました。音楽の「そう大さ」「多様性」が詳しく感じられ、自分も新たな想像のしかたを学ぶこともできました。だから、今回学んだことを普段の国語や音楽の授業など学習の場面でも生かしていきたいと思います。
- ・最後にひいてもらった、戦争の曲は、すごくはく力があり、力強い感じだなと思いました。はじまりの時の速いところは、何をイメージしているのか不思議に思いました。すごくながい曲だったけど、その前に学習した「感じ方は人それぞれで、答えなんかない」というので、答えがないので自信をもって感じることができました。他の曲でもちゃんと意見を出せし、自分はどのように感じたのかも分かりました。
- ・いつも曲をきいても、「ああきれいだなあ」と思うだけだったので、これからはたくさんのことを想像して、曲のいみについてしらべてみたいです。
- ・アウトリーチを受けてみて音楽の力はすごいと感じたり、ピアノはいいと力強くしたりできるんだなと気づいたりしました。そして音楽は、そうぞう力を広げさせるんだなと思いました。
- ・音楽聴いて、想像することやイメージは人それぞれあることが分かりました。考えを発表することは大切なことなので、これからどんどん自分の考えを発表しようと思います。
- ・いままでピアノの音で感動することはなかったのですが、仲道郁代さんの革命をきき、感動し涙がでてきました。ピアノの一つ一つの音に仲道郁代さんの気持ちなどがこめられていて、すごかったです。ピアノの音だけではなく、

仲道郁代さんの顔や体からも感情が出ていてとてもはくりよくのあるえんそうでした。

・音楽には、感情や体を動かす力があるということが分かった。それにいろいろなことを考えました。音楽を聞くはくりよく、音なしのはくりよく、それぞれちがって聞こえておもしろかったです。とくにショパンが作った革命というのが音楽で表現されていてすごかったです。音を聞いたしゅんかん、はげしくてものすごいはくりよくをかんじました。音楽で革命を聞いたことがあって、人がひいているのを見ながらだと全然つたわってくるものがちがいました。

## 《まとめ》

今年で5年目を迎えた七ヶ浜アウトリーチプログラム。今回は、「聴く」ことを軸として、「自分の心と向き合う、他者の心に目を向ける、そこから感じたこと、想像したことを言語化する活動」を充実させている。教育現場で行うアウトリーチだからこそ、児童の主体的な学びを引き出そうとする仲道氏の強い思いが感じられた。ゲーム感覚を利用して行った「多角的な観点から作品を聴く」という活動は、直感ではなく理由付けを考えさせる方向へと児童を導き、仲道氏が個々の意見をすくい上げていくことで、深い思考が伴った主体的な活動へと発展した。児童一人一人が感性を働かせて、音楽と能動的に関わったこれらの活動は「物事を多角的・多面的に吟味し見定めていく力（クリティカルシンキング）」の育成に役立つと考えられる。

またアンケートにおいては、仲道氏の演奏する曲に、「迫力」「強弱」を感じて、「心を動かされた」と書いている児童が多数見られた。（例／ゆっくりの曲の時、はげしい曲の時、すべてがすごく心を通りぬけるかのように伝わってきました。そしてはげしいところとやさしいところを強く弱くして、すごいところは強く、そして弱くするのが分かりました。ふつうにひくより力強くひいてすごく感動します。そしてゆっくり悲しい曲になると、ぱっときりかえ、自分が落ちついたらひき始めるのがすごかったです。でも近くで聞くとすごい迫力がおしてきて、想像を大きくふくらみました。（原文のまま）

強弱は音楽の中ではやはり大切な要素で、それが人の心情を表現し、聴く人の心を動かすものである。児童たちは仲道氏の演奏を集中して聴くことによって、音楽の中にある強弱に心が動かされ、想像する面白さから、主体的に鑑賞しようとする態度が掘り起こされたと言える。仲道氏の演奏や身体から醸し出される音楽的なエネルギーや呼吸などを、児童たちはしっかりと感じ取っていたのであろう。古くはリトミックを考案したダルクロワーズも、子どもが音楽を学ぶ上で大切な事は身体全体で音楽を感じ取る事であると述べている。（注）

さらに仲道氏が繰り返し伝えた「みんなが感じ取ったことに間違いはなく、それはすべて正解。感じる事が大事です。」というメッセージによって、児童たちは豊かに想像力を発揮し、他者の感性や考えを受け入れることで自分の中に新しい感覚を見つけていた。つまり、「聴く」という活動の中で自分や他者の気持ちと向かい合い、感じとったことや想像したことを言語化し、他者の考えも取り込みながら自分の思考を発展・変化させていくことで「柔軟な思考力」を発揮することができたのである。これは次期学習指導要領で検討されている「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）」の活動につながるものであると言える。

仲道氏が活動の最後に「みんなの心の奥、普段は気が付かないようなことに向き合って、頑張って言葉にしてくれたのが嬉しいです。」と言った言葉は、彼らの学習意欲をさらに引き出す力となったであろう。教育現場でのアウトリーチに真剣かつ意欲的に取り組む仲道氏のチャレンジを今後も応援しつつ期待したい。（鈴木香代子）

（注）「耳の知覚は、身体の中で振動し、響き合うさまざまな物質によって呼び覚まされたすべての知覚によりいちだんと強化され、呼吸はフレーズのリズムを正しく区切り、筋肉の強弱変化は音楽の情感を指示している強弱変化を翻訳・表現するのである。」「大事なのは、母親が幼い我が子に、音楽のニュアンスの味わい方を教えてやること、彼女の弾くピアノの柔らかさや強さ、高音部と低音部、速度の遅速、遠近、レガートとスタッカートを感じ取らせること、子どもをドアの外に立たせ、演奏の最中にドアをゆっくり開閉することでクレッシェンドとディミヌエンドを理解させてやること、なのである。」（リトミック論文集「リズムと音楽と教育」（2003）エミール・ジャック＝ダルクロワーズ著 板野平監修 山本昌男訳 全音楽譜出版社）

【助成対象経費報告（一行：5名）】

移動費（東京・仙台往復）：110,550 円

@22,200 円×2名 = 44,400 円

@21,890 円×2名 = 43,780 円

@22,370 円×1名 = 22,370 円

宿泊費（ホテルキャッスルプラザ多賀城）：154,224 円

@9,300 円×1名×4泊 = 37,200 円

@6,600 円×4名×4泊 = 105,600 円

上記に係る消費税 11,424 円

ピアノ調律経費：151,200 円

合計：415,974 円（うち支援対象経費 300,000 円）